

伝統こけしのふるさと
(県別こけし産地紹介)

柴田長吉郎

4. 秋田県

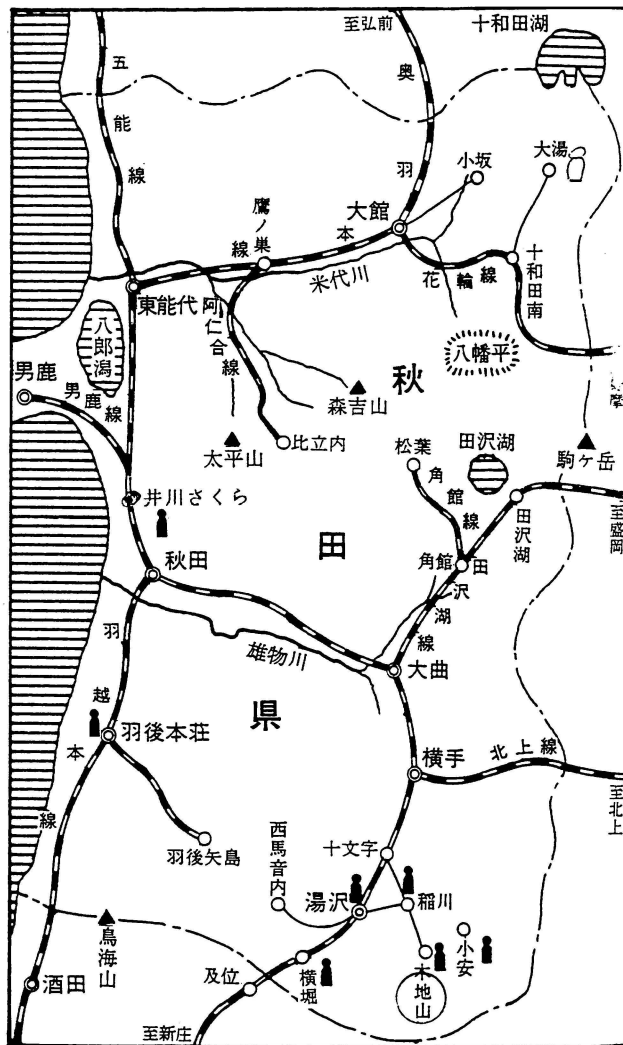
秋田県では何と言っても、木地山系の発祥地である皆瀬木地山が中心であった。現在は、木地の小椋家では、木地山系こけしの始祖久四郎と、それを継ぐ久太郎と、その長男宏一がいずれも没し、孫の利亮があとを継いでこけしを挽いている。木地山系の中心は寧ろ山を下った稲川町（現在は湯沢市に編入）方面に移ったと言えよう。県下ではその他、鳴子系の工人などが伝統こけしを製作している。

4.1 湯沢市

もとは旧市内以外に、雄勝郡皆瀬村や、稲川町で木地業が行われ、こけし工人が居たが、現在は全部湯沢市に併合されている。旧湯沢市内では、愛宕町で故鈴木国蔵の弟子（井川）が伝統こけしを作り、高松でも見取りであるが工人がこけしを作っている。また、旧雄勝町横堀（現在は湯沢市）では、故鈴木幸太郎の弟子（中川）が製作を続けている。その他、市内には名物のまなぐ凧の絵をこけしの胴に画いた工人もいるが、伝承性には乏しい。

湯沢から小安行のバスで約30分（稲川町役場で下車）の川連地区では多くの工人（阿部一家、高橋、など）がこけしを作り、また字大館や（小野寺）三梨にも（三春）こけし工人が住んでいる。これらの集落はいずれも旧稲川町に属しているが、稲川はうどんの製作で有名であり、最近復元された稲川城には、寄贈された古作（主として故人）こけしが展示されている。川連一帯は古くから佛壇や椀の製作で知られており、これに伴って、木地業と漆器塗業が盛んで、小物挽きの木地業の傍らこけし製作が行われたものと考えられる。工人故小椋泰一郎が良い型のこけしを作り、多くの弟子達を教えたが、現在此の型を継承して作っているのは阿部一家のみで、他は後継者が無く途絶えている。

湯沢市では、毎年2月に「いぬっこまつり」を行い、大きい犬の雪像を作って御まつりするが、このとき会場でこけしの展示と即売も行うので一見すると面白い。



秋田県こけし産地分布図

最近はまだ、川連でも川連こけし展を行っている。旧皆瀬村は高原地帯と、その山麓地帯に分けることができるが、戦前は小安方面からしか道路が開けず、苔沼、田螺沼、桁倉沼などの木地山高原を経て小椋家のある木地山（川向）に達するが、戦後は湯沢から泥湯へ道路が開通して、途中にある木地山へもバスで容易に行けるようになった。川向では木地山（水上沢）のほか、畑等、藤倉、板戸などでも工人がそれぞれ木地山系のこけしを作っている。木地山の故小椋久四郎は、菊花模様のほかに前垂に梅花を画いた独特の模様を創案し、木地山の前垂れこけしとして知られ、久太郎に受けつがれたが、久太郎の没後この前垂れ模様を作る工人が多くなった。

小安温泉では、故伊藤儀一郎が異色のこけしを作り、義弟の故常治がこれを受けてこけしを作ったがこれも没して後継者が居ない。わずかに弟子（高橋）が畑等でこけしを製作している。